

学校教育目標	笑顔いっぱい — かしこく やさしく たくましい 児童の育成 —	経営理念	【ミッション】 確かな学力(知・徳・体の基礎・基本)を着実に身に付けさせ、子ども一人一人が持っているよさと可能性を最大限に伸ばし、生涯にわたって他者よりよい関係を築きながら、すすんで課題を見つけ改善することで生き抜く人間性を育成する。 【ビジョン】 ○落ち着きのある温かい学校 ○生きるための知恵を身に付け、思いやりのある、たくましい心と体をもつ子ども ○謙虚さをもち、礼節を守り、自らの専門性を発揮しながら的確に職務を遂行する教職員
--------	-------------------------------------	------	--

評価計画						自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方針	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	2月						
知	1	意欲的に学習に取り組み確かな学力を身に付けた児童を育てる。	・基礎・基本となる知識・技能を確実に定着させる。 ・自信や自己肯定感につながる「わかった」「できた」「やってみたい」という思いを実感させる。	・タブレット等の有効活用による個別最適な学びの実践 ・算数科における、児童が学びや成長を実感し新たな課題につなげる振り返りの充実を図る授業実践 ・SDGsを柱としたカリキュラムマネジメント	・学期末テスト80点以上の児童の割合 ・70点未満の児童の割合	高学年 75% 低学年 85% 5% 未満	高学年 80% 低学年 72% 18%	高学年 93% 低学年 85% 8%	高学年 124% 低学年 100% 4 3	「たしかめよう」テストでの、国語科の80点以上の児童の割合は、低学年90%、高学年91%であり目標値を上回った。算数科の80点以上の児童の割合は、低学年79%、高学年94%であり、低学年は目標値に達しなかった。70点未満の児童の割合は国語科6.3%、算数科9.4%であり、目標値を下回った。前期末テスト結果と比べ、80%以上の児童の割合は増え、70%未満の児童の割合は減少した。	A	基礎学力は向上していると思う。まだ70点未満の児童が多すぎる。	特に算数科において課題が大きいので、進級に向けて支援を継続し、学力向上につなげたい。	
					・児童アンケートにおける授業の理解に係る肯定的回答 ・自分の成長を実感できることに係る肯定的回答	90%	95%	96%	106%	4	児童アンケートで「授業はよくわかりますか。」という質問項目に対して、全学年の肯定的回答は96%であった。「授業の終わりに振り返りをして「わかった」「できた」と感じることがありました。」の質問項目に対しては85%であった。算数科を中心とした研究を進める中で、授業の理解度も進んでいると考えられる。	A	アンケートによる児童の理解度把握は有効的と思う。	授業を振り返る中で自分の成長を実感できる児童も増えているが、目標値に届くよう更に研修を進めたい。
					・SDGsとの関連を意識しながら学習することに係る肯定的な回答	85%	84%	83%	98%	3	SDGsコーナーに、SDGsクイズを掲示し、児童の関心が高まるようにした。また、学校便りや保健便りの内容ごとにマークを付けたリ、市内のスーパーや図書館に示されているSDGsとの関連の様子を写真で紹介したりし、児童がSDGsと生活のつながりを感じられるように工夫した。結果、各学年学習内容の中でSDGsを意識している児童も、前回とほぼ同程度に目標値に近付いたものとなっている。	B	SDGsは生活と密着したことであり、家庭の協力が必須。社会見学等直接体験をすることでより学びが深まると思う。	今後もSDGsとの関連を意識しながらより広い視野をもたせて、学習に取り組ませる。
徳	2	人を思いやり、思いを伝えあうことのできる児童を育てる。	・ソーシャルスキルの向上を図る。 ・スタンダードを徹底し時間を大切にできる態度を身に付けさせる。	・ソーシャルスキルやコグレ等の研修と実践 ・5分前行動の徹底	・「相手に自分の思いをすすんで伝えることができる」「相手の思いを聞くことができる」に係る肯定的回答	90%	伝える 88.9% 聞く 95.3%	伝える 89.8% 聞く 94.7%	伝える 99% 聞く 105% 3 4	「相手に自分の思いをすすんで伝えることができる」は、前期の回答より全学年とも同じか、肯定的な回答が増えている。「相手の思いを聞くことができる」は、5学年で前期の回答と同じか、肯定的な回答が増えている。	A	常日頃の教職員の取組の成果が出ている。思いやりの心の大切さを育むことをこれからも継続してほしい。	教職員のソーシャルスキルやコグレ等の研修を積極的に行い、学年に応じた指導を継続していく。	
					・児童アンケート・教師アンケートにおける時間を守ることに係る肯定的回答	90%	85%	90%	100%	4	1学年以外は前期の回答と同じか、肯定的な回答が増えている。月ごとの生活目標で決めたことを守ることができているのかを、帰りの会で確認することで、児童への意識付けができてきた。	A	取組を継続してほしい。	時間を意識できていない場面では、教職員で声掛けや学級での指導を継続していく。
体	3	自分の考えをもち進んで行動できる、心身ともに健康な児童を育てる。	・健康な生活リズムを育成する。 ・たくましい児童をめざし、体力の向上を図る。	・早寝やSNS等利用に係る指導の充実 ・朝会、全校体育等での体力向上の取組	・児童アンケート・保護者アンケートの就寝時間に係る目標達成状況	85%	83%	87%	102%	4	高屋中学校区で行われる「ノーテレビ・ノーゲーム・ノーネットウィーク」の取組などを通して、家庭への啓発を行った。また、複数回保健指導を行い、朝食や栄養バランスの大切さ、睡眠の重要性、手洗い指導等を児童に指導した。	A	家庭への呼びかけが必要。	引き続き保健便りや、学校の掲示板などを活用し、継続して指導していく。
					・新体力テストにおける県平均値、全国平均値を上回る種目数の割合	75%	59%	79%	学校全体として20mシャトルラン(持久力)とソフトボール投げ(投力)に課題が見られた。そのため、業間体育での3分間走の取組を授業でも続けた。また、授業で投げる機会を多くする工夫をしたり、休憩時間用のドッジボールを各学年に1個増やしたりした。市小学校陸上記録会に出場希望の児童のみでなく、練習参加を広く呼びかけた。	A	現在の取組の継続をし、体づくり、健康に関心をもち元気な造賀っ子に育ててほしい。	保健体育リサイクル委員会を中心として、休憩時間の外遊びの奨励を強化しているなど課題解決に向けて取組を継続し、改善を図っていく。		
信頼される学校	4	目標を明確にし、チームワークによる効率的で効果的な教育活動を展開できる学校をつくる。	・目標と計画を明確にし、組織的・計画的に教育活動を推進する。 ・個々が計画的に業務を行うことで、持ち帰り仕事の減少を図る。	・分掌及び学級の計画の精緻化確認、各部による業務改善案の提案と実施 ・個々による4半期・月・週・1日の業務とスケジュールの明確化、自己研修時間等の確保	・保護者、地域の教育活動に係る意識調査の肯定的評価	90%	86%	86%	95%	3	「学校が学力を付けているかどうか」は88%、「活動の目的や児童の成長の様子を伝えているか」は95%の肯定的評価をいただいた。「子どもは意欲的に学習に取り組んでいる。」についての肯定的評価が71%にとどまったので、教職員で改善に向けて取り組んでいく。 分掌ごとの教育活動の実施については、計画的に行われている。	A	計画的な取組で成果が出ている。	来年度に向けて反省を行い、業務改善につなげるよう改善案を検討している。
					・教職員アンケートにおける計画的業務遂行の意識に係る肯定的回答 ・持ち帰り仕事の削減割合	85% 30%	100%	117%	4	勤務時間外在校時間の平均は43時間となり、昨年度より約5時間増加している。しかし、4日以上持ち帰り仕事をしている教職員は36%と昨年度の半分になった。教職員は「計画的に業務を行うことができている。」の項目で100%の肯定的評価だったが、「子供と向き合う時間が確保できている。」の項目では73%にとどまった。	A	日常業務の見直しによる教職員の負担軽減を図ってほしい。児童と向き合う時間を優先してほしい。	今後も業務改善を行い、負担軽減を図っていく。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

評価 4…目標を上回って達成(101以上) 3…目標どおりに達成(90~100)
2…目標をやや下回って達成(80~89) 1…目標をかなり下回って達成(79以下)